

桜蔭俳話会

第二三回通信句会 選句結果

平成二十八年秋。選句数は五句、うち特選一句。

(○内の数字は、特選句数で選句の内数です)

3点	鮎落ちて桜樹のもとに釣られけり	朋子	5点②	ていねいな庭師の仕事晴日和	幸子
1点	なまこ壁の続く川岸赤とんぼ	友子	3点①	望郷を淡く染めたる秋霞	のりとし
1点①	星月夜ひまわり宇宙で観測す	直子	4点	祝ふ子の産毛艶やか七五三	幸
4点	出勤のメールチェックや露寒し	守	3点	知らぬ名の茸買ひけり道の駅	秀一
6点②	子等だけの道のあるらし秋の原	かおる		熟柿の高枝缺遠くして	ツル子
	新米と金字のマーク店の先	ツル子	2点	色なき風や絵本の中に沙漠の花	明美
2点①	柚子落ちて池のさざ波黄金色	眞壽	2点	ジャグリング秋空に須臾のまれけり	幸枝
5点④	身構へぬ寡黙や風の吾亦紅	秀一	1点	朝の道日ごと色濃くななかまど	直子
1点	返還の扉開かむ島は秋	明美		塾の子のかばん重たき夕日夜	守
1点	秋立つや八十の医師健やかに	幸子	2点②	神の留守が本物の文字滲む	かおる
1点	金木犀地を染め終も美しくあり	幸枝	1点	盆栽が色つき立ちぬ櫛紅葉	眞壽
1点	霊水を吸ふ彼岸花透きてをり	安紀子	5点②	去年までは父の唄ひし踊歌	のり子
2点	ポケットに手を入れ歩く銀杏道	のりとし	4点①	あたらしき知事あたらしき小鳥来る	朋子
	朝早く声のにぎわぬ小鳥来る	眞三	3点	天高し道路縦横ビルの上	ヤエ子
5点	数珠玉や一枚板の長屋門	幸	2点	直椅子押す人の背に愁思あり	安紀子
2点	一人居の母の声聞く愁思かな	のり子		一人座し旅籠や橋と秋の声	眞三
1点①	鬼柚子や歯医者器具のおそろしげ	ヤエ子	5点	敵島の宮司小走り台風来	友子
	つばくろの初旅の日や高き天	幸			
3点	雨上り秋日吸ひこむ島の土	幸枝			
4点	後の月酔いどれ雲が漂よえり	眞壽			
4点	ジーンズ屋は代官所跡つた紅葉	友子			
1点	天高し汽笛の音を胸に秘め	のりとし			
1点	息せわし色葉踏みしめ登る道	ヤエ子			
	声囁らす運動会の父兄席	明美			
	久々の介護語るや秋の夜	かおる			
3点②	へうたんかぼちや仏壇の父母おどろかす	朋子			
	江戸風の入口眺め湯の秋の	眞三			
2点	夜の客見送る路地の盆提灯	幸子			
2点①	草の実のまつわる谷戸の径ほそし	ツル子			
3点①	蟋蟀飛ぶ神手遊びのバネ仕掛け	守			
3点	葛の花みな首立てて咲きそるひ	のり子			
1点	巡り会ふ縁の数や星月夜	安紀子			
4点①	金木犀いつきに薫る通夜帰り	秀一			
1点	今日から光る新米白い湯気	直子			